2014年4月1日発行（隔月発行）

図書館報 ぷらっつ★篠崎

035号

特集「SHINOZAKI QUEST」

P3 そのメロディに魅せられて♪
「アルプス交響曲」

P4 人物ブックマーク
「やなせたかし」

P4 スタッフのセレクション！
「いいなずけ」

FROM館長

最初に図書館制度を紹介したのは諭吉??

4月といえば何かを始める季節です。私は2年前に図書館のことを少し勉強したいと思って、仕事を続けながら慶應義塾大学の大学院に入学しました。今年の3月28日の学位授与式をもって修士課程修了となりました。

日本で司書資格を取れる大学は216ありますが、学位として図書館情報学もしくは図書館・情報学を取れるところはごくわずかです。マイナーな学問分野です。

明治時代に大学ができ、いろいろな学問を学べるようになりましたが、日本で最初に図書館学科が誕生したのは1951年の慶應義塾大学です。

図書館というと、慶應義塾の創設者である福澤諭吉が欧米の図書館制度を日本に最初に紹介したと言われています。『西洋事情』初編巻1に記載された「文庫」の箇所です。

しかし最近では、江戸時代から欧米の視察に派遣された人々が残した報告書もあることから、『西洋事情』が初めての紹介文献ではないと言っている方もいます。

「最初」の根拠は難しいのかもしれません。

左の写真は慶應義塾図書館じゃ

右の写真は図書館内のステンドグラス。美しいのう……！

江戸川区内のイベントやスポットをスタッフが調査して身近な情報をお届けする、地域密着型のコーナーです。

江戸川まいにんぐ　発掘　第３５回
倍返しをする篠崎狐

篠崎図書館のキャラクターは“篠崎狐”だというのは、皆さんご存知でしょうか？

なぜ狐？と思われるかもしれませんが、実は昔々（寛政年間の頃）篠崎村に、4匹の白く大きな狐が住んでいたという民話があるのです。この狐を図書館のキャラクターとしました。

しかし、この狐たち、かなりの悪戯好きのようでして、村人や商人たちは何度も悪さをされていました。そんなある日、とある商人が昼寝している狐たちを見つけ、日頃の恨みとばかりに大声で脅かすと、狐たちは驚いて逃げ出したので、それを見た彼は大喜びしました。しかし、その後、歩いていると雨が降り出し、休息のため立ち寄った所で、狐たちによって騙され、噛みつかれ、血だらけになっているところを農民に助けられました。脅かしたために、倍返しされてしまった商人は、後難を恐れ小豆飯や油揚げを持って行き、謝ったそうです。

自分の悪さは棚に上げて倍返しをする狐たちですが、私たち図書館員は、日頃の感謝を倍にして皆様にお返ししたいと思ってお仕事させていただいております。(^^)

参考資料

「水木しげるの日本妖怪めぐり」 水木しげる著　JTB　388ミ　篠崎ほか所蔵
「篠崎むかし昔」 茨木　清美著　江戸川区青少年委員会鹿骨地区部会　K1-38　篠崎ほか所蔵

ライブラシネマ篠崎

「巴里のアメリカ人」
（1951年、アメリカ）

監督：ヴィンセント・ミネリ
出演：ジーン・ケリー
　　レスリー・キャロン　ほか

４月２０日（日）
14時　開演　（13時30分　開場）
場所：篠崎文化プラザ　講義室
定員：70名(当日受付、先着順)
どなたでも参加できます。
入場料：無料

画家になるため愛するパリへやってきた元軍人のジェリー。清楚な娘リズに一目惚れするが彼女には婚約者がいて……。ガーシュウィンの楽曲に合わせて繰り広げられる魅惑のバレエによって、ストーリーが形成されています。

人物ブックマーク

人物ブックマークとは、著名人とその著作および関連本を紹介するコーナーです。

第二十七葉　やなせたかし

昨年10月に94歳で死去したやなせたかしさん。彼は「アンパンマン」の作者として有名ですが、その他にも童謡「てのひらを太陽に」などの作詞を手掛け、また雑誌『詩とメルヘン』の編集長を30年にも渡り務めていました。

そんな多くの功績を残したやなせさんは1919（大正8）年に高知県で生まれました。幼い頃から絵を描くのが得意だった彼は大学で絵画を学び、卒業後は製薬会社に入社するも、翌年に太平洋戦争が勃発し徴兵されます。終戦後は高知新聞社に入社し、その後日本橋三越の宣伝部を経て、フリーの漫画家になりました。

アンパンマンが初めて登場したのは『十二の真珠』という童話集の中の一作品としてでした。そのときのアンパンマンは顔がアンパンではなく丸顔の太った人間で、当時流行っていた強くて格好良いヒーローたちとは全く違うものでした。それというのも、戦争を経験した彼の心の中には常に「本当の正義とは何か」という問いがあり、「正義とは決して格好良いものではなく、自分を犠牲にしても他人に尽くせるかどうかだ」という想いから生まれたキャラクターだったからです。最初はその不格好な姿から世間の注目を浴びることがなく、10年経ってやっと子どもたちに受け入れられ、現在のような国民的キャラクターとして知られるようになりました。

「本当の正義とは何か」を問いながら、アンパンマンを通して伝え続けたメッセージは、やなせさん亡き現在も人々を惹き付けてやみません。アンパンマンはこれからもずっとたくさんの子どもたちに愛されていくことでしょう。

関連書

「十二の真珠」	やなせ　たかし著	サンリオ	913 ヤ	小岩ほか所蔵
「アンパンマンの遺書」	やなせ　たかし著	岩波現代文庫	B726ヤ	篠崎ほか所蔵
「やなせたかし　アンパンマンの生みの親」	圷（あくつ）　紀子作	講談社学習コミック	72ア	篠崎子どもほか所蔵

スタッフのセレクション

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「いいなずけ」『ともしび・谷間』所収

チェーホフ著　岩波文庫　B983チ 篠崎ほか所蔵

「一日に、六、七行ずつ書いている。それ以上は無理だ。いくら生活がかかっているとしても。僕は実際毎日下痢ばかりしている」（1903年2月5日書簡）※

長年患ってきた結核がすすみ、それが腸を冒して下痢になりながらも、43歳のチェーホフは必死にペンを持ち、それこそ「一時間に大匙一杯」の割合で書き続けていた。そして、五ヶ月にわたる断続的な努力の末に、チェーホフ最後の短編小説である「いいなずけ」が完成した。

婚約したばかりの女主人公ナージャは、幸せの絶頂にあるはずだったが、なぜか気が重く、得体の知れない不安の中にいた。それは身内同然の青年サーシャ（結核を患っている！）の言葉のためだった。彼はナージャに、他人の犠牲の上に築かれている怠惰な生活はすぐに捨てて、勉強に出かけてほしい、と言うのである。

「そういう人びとが増えれば増えるほど、地上の神の王国の近づくのも早まるんだ」

迷った末、彼女はついに決心し、勉強のために婚約を破棄して、家を出ていってしまうのだった。

翌年、ナージャは強い郷愁にかられ故郷に帰ってきた。が、しかし、その懐かしの故郷がちっぽけに見えてしまったのである。それだけではない。サーシャが胸の病で亡くなったことを聞いても、彼女を感傷的な気持ちにはさせなかったのだ。なぜなら「彼女はただもう心から生きたかった」のである。そのために、一切の過去を自分から切り離したのだ。

「彼女は二階の自分の部屋に行って荷物をまとめたが、あくる朝、家の人びとに別れを告げ、生き生きとして、心も軽く町を去って行った、二度と戻ることはないだろうと思いながら」

彼女は自分の人生の一歩を、ようやくしっかりと、踏み出した。後ろを振り返らず、ただ前だけを見て……。

4月に新しい一歩を踏み出すという人は、ナージャのように、迷いなく、生き生きと、心も軽く突き進んでほしいものである。ちなみにナージャという名の意味は「希望」ということである。

※「チェーホフ伝」アンリ・トロワイヤ著 中央公論社　980ト 篠崎ほか所蔵　P314

編集後記

春は冒険の季節。高い山に登ったり、長距離を歩いたりして自分の限界に挑戦します！（風雲ふわふわ丸）／冒険とまではいかないですが、一人旅が結構好きです。今年もどこかへ行く予定です。（かき氷職人）／冒険なんてムボウなことは、１ミリたりとも考えません。体Damageきっとあるので。（M.弱尊）

編集・発行：江戸川区立篠崎図書館
住所：〒133-0061
江戸川区篠崎町7-20-19
篠崎文化プラザ内
TEL：03-3670-9102
[しのざき文化プラザHP]内篠崎図書館ページ
http://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/